

四万十川流域の 沈下橋



高 知 県

四万十川総合保全機構

財団法人 四万十川財団

四万十川の沈下橋

沈下橋は、四万十川の雄大な景観に溶けこみ、観光のポイントともなっています。

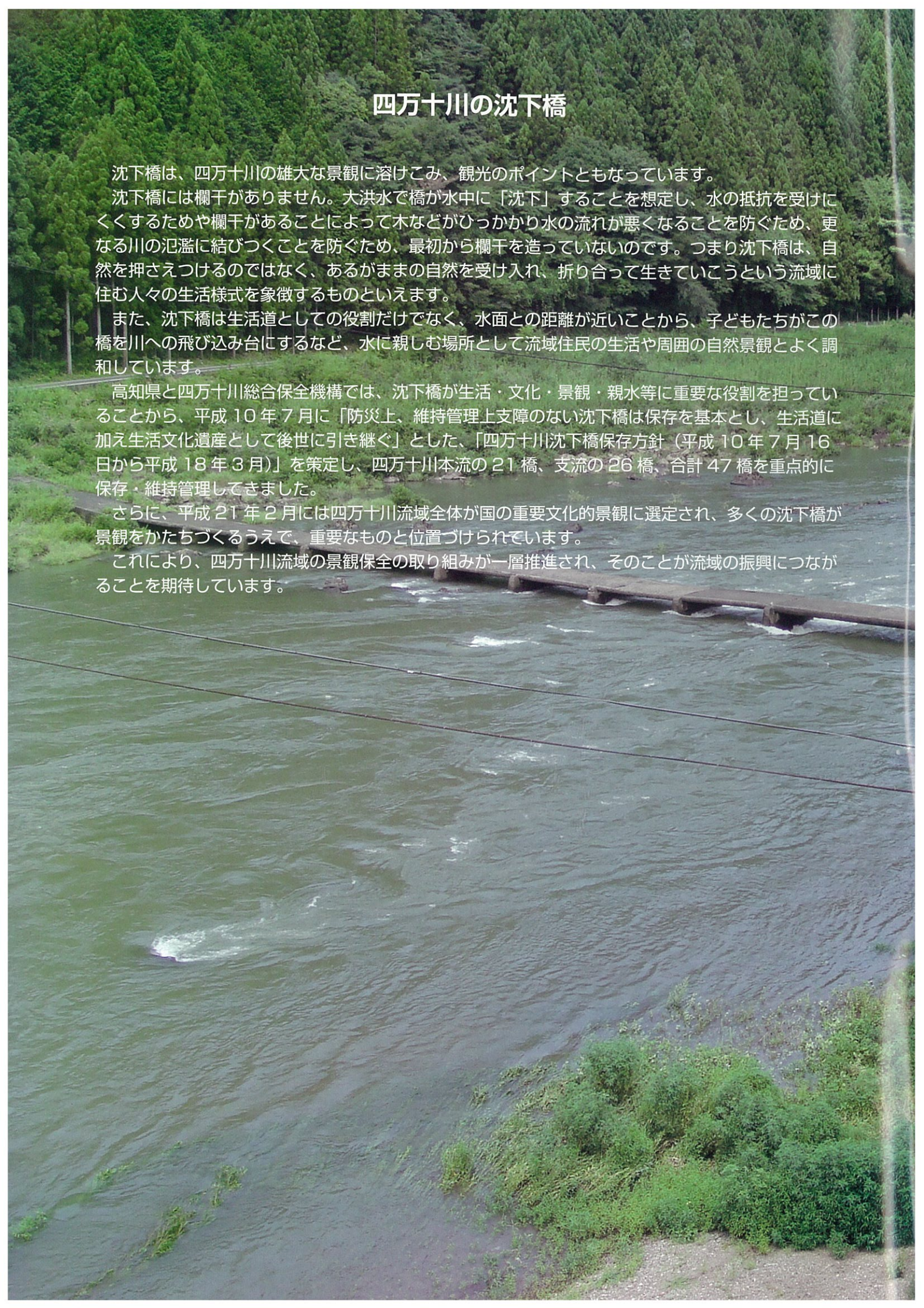
沈下橋には欄干がありません。大洪水で橋が水中に「沈下」することを想定し、水の抵抗を受けにくくするためや欄干があることによって木などがひっかかり水の流れが悪くなることを防ぐため、更なる川の氾濫に結びつくことを防ぐため、最初から欄干を造っていないのです。つまり沈下橋は、自然を押さえつけるのではなく、あるがままの自然を受け入れ、折り合って生きていこうという流域に住む人々の生活様式を象徴するものといえます。

また、沈下橋は生活道としての役割だけでなく、水面との距離が近いことから、子どもたちがこの橋を川への飛び込み台にするなど、水に親しむ場所として流域住民の生活や周囲の自然景観とよく調和しています。

高知県と四万十川総合保全機構では、沈下橋が生活・文化・景観・親水等に重要な役割を担っていることから、平成 10 年 7 月に「防災上、維持管理上支障のない沈下橋は保存を基本とし、生活道に加え生活文化遺産として後世に引き継ぐ」とした、「四万十川沈下橋保存方針（平成 10 年 7 月 16 日から平成 18 年 3 月）」を策定し、四万十川本流の 21 橋、支流の 26 橋、合計 47 橋を重点的に保存・維持管理してきました。

さらに、平成 21 年 2 月には四万十川流域全体が国の重要文化的景観に選定され、多くの沈下橋が景観をかたちづくるうえで、重要なものと位置づけられています。

これにより、四万十川流域の景観保全の取り組みが一層推進され、そのことが流域の振興につながることを期待しています。



目 次

四万十川本流に所在する沈下橋

高 樋 橋 …… 1	第二三島橋 …… 12
久 万 秋 橋 …… 2	半 家 橋 …… 13
長 野 橋 …… 3	中 半 家 橋 …… 14
一斗俵沈下橋 …… 4	長 生 沈 下 橋 …… 15
清 水 大 橋 …… 5	岩 間 大 橋 …… 16
向 弘 瀬 橋 …… 6	屋 内 大 橋 …… 17
上 宮 橋 …… 7	勝 間 橋 …… 18
向 山 橋 …… 8	高 瀬 橋 …… 19
里 川 橋 …… 9	三 里 橋 …… 20
新 谷 橋 …… 10	今 成 橋 …… 21
第一三島橋 …… 11	

四万十川支流に所在する沈下橋

大 平 橋 …… 22	サワタリ橋 …… 35
寺 野 橋 …… 23	一ノ瀬橋 …… 36
テバコ橋 …… 24	金刀比羅橋 …… 37
井津井谷橋 …… 25	タニガミ橋 …… 38
石 藪 橋 …… 26	沖下沈下橋 …… 39
中 古 屋 橋 …… 27	上 長 瀬 橋 …… 40
新 道 橋 …… 28	小 崎 沈 下 橋 …… 41
川 角 橋 …… 29	下 津 賀 橋 …… 42
竹の藪沈下橋 …… 30	小 津 賀 橋 …… 43
仲 間 橋 …… 31	小 津 賀 橋 …… 44
仲久保沈下橋 …… 32	白 王 橋 …… 45
中 平 沈 下 橋 …… 33	ナロノ橋 …… 46
木 屋 ケ 内 橋 …… 34	岩 神 橋 …… 47

番外編

若井沈下橋 …… 48
早 瀬 橋 …… 49

〔参考〕四万十川沈下橋保存方針 …… 50
沈下橋保存方針イメージ図 …… 51

橋梁のデータは平成22年12月1日現在
第1種及び第2種区分は「四万十川沈下橋保存方針」に基づき
平成11年12月2日に決定



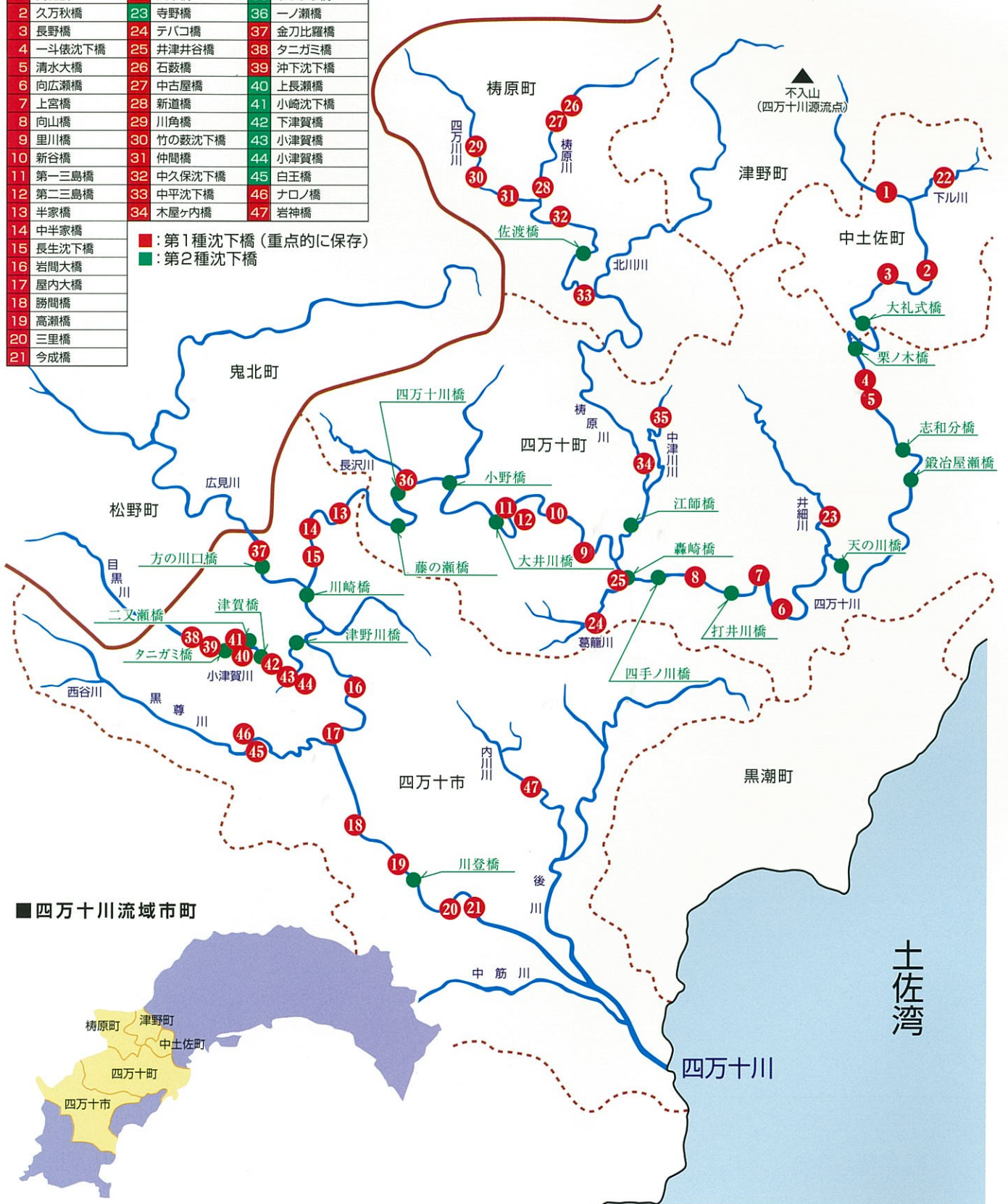
四万十川流域沈下橋位置図

● 現存する沈下橋（四万十川沈下橋保存方針対象橋） ● 撤去された沈下橋

■ 四万十川の沈下橋

番号	橋梁名	番号	橋梁名	番号	橋梁名
1	高樋橋	22	大平橋	35	サワタリ橋
2	久万秋橋	23	寺野橋	36	一ノ瀬橋
3	長野橋	24	テバコ橋	37	金刀比羅橋
4	一斗俵沈下橋	25	井津井谷橋	38	タニガミ橋
5	清水大橋	26	石敷橋	39	沖下沈下橋
6	向広瀬橋	27	中古屋橋	40	上長瀬橋
7	上宮橋	28	新道橋	41	小崎沈下橋
8	向山橋	29	川角橋	42	下津賀橋
9	里川橋	30	竹の敷沈下橋	43	小津賀橋
10	新谷橋	31	仲間橋	44	小津賀橋
11	第一三島橋	32	中久保沈下橋	45	白王橋
12	第二三島橋	33	中平沈下橋	46	ナロノ橋
13	半家橋	34	木屋ヶ内橋	47	岩神橋
14	中半家橋				
15	長生沈下橋				
16	岩間大橋				
17	屋内大橋				
18	勝間橋				
19	高瀬橋				
20	三里橋				
21	今成橋				

■ 第1種沈下橋（重点的に保存）
■ 第2種沈下橋



■ 四万十川流域市町



名称

① ^{たかひばし}高樋橋 (通称 ^{おおまたちんかばし}大股沈下橋)

第1種沈下橋

橋梁データ

管 理 者 名	中土佐町長	
所在市町村・字名	中土佐町大野見大股	
架 橋 年 度	昭和40年	
路 線 名	農道高樋久原線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	平地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	歩道	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	30.1m
	幅 員	1.5m
橋 脚	本 数	4.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



左岸下流側より (H22.9.14撮影)



右岸下流側より (H22.9.14撮影)



橋についてのワンポイントメモ

四万十川本川の最上流の沈下橋。透明度が高く下流側にある堰により、水流は穏やかです。夏場は子供達の歓声につつまれる水泳場ですが、今は静寂であり放流された大きな錦鯉が悠々と泳いでいます。

橋梁データ

管理者名	中土佐町長	
所在市町村・字名	中土佐町大野見久万秋	
架橋年度	昭和39年	
路線名	町道奈路久万秋線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地勢	平地
	水流	普通
	水質	清
通行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台帳	橋長	49.0m
	幅員	3.0m
橋脚	本数	6.0本
	構造	鉄筋コンクリート
	形状	直方体
床版	厚さ	50.0cm
	天端高	10.0cm
	形状	直方体



左岸下流側より (H22.9.14撮影)



右岸下流側より (H22.9.14撮影)



橋についてのワンポイントメモ

浅瀬で清らかな流れであり、さらさらと流れると表現するのに最適な場所です。
 毎年4月には、大野見アメゴ釣りの祭の会場になります。
 また近くには、名水、久万秋の湧水があります。

橋梁データ

管 理 者 名	中土佐町長	
所 在 市 町 村・字 名	中土佐町大野見楨野々	
架 橋 年 度	昭和39年	
路 線 名	町道楨野々竹原線	
横 断 する 河 川 名	四万十川 本川	
周 辺 環 境	地 勢	平地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	56.0m
	幅 員	3.0m
橋 脚	本 数	7.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
床 版	形 状	直方体
	厚 さ	50.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



右岸下流側より (H22.9.14撮影)



右岸下流側より (H22.9.14撮影)



橋についてのワンポイントメモ

鮎の友掛けをする人が多くみられる場所です。
水深が浅く清流なので沈下橋の上から鮎の姿を見ることができます。

橋梁データ

管 理 者 名	四万十町長	
所 在 市 町 村 ・ 字 名	四万十町壺斗俵	
架 橋 年 度	昭和10年	
路 線 名	町道米奥壺斗俵線	
横 断 する 河 川 名	四万十川 本川	
周 辺 環 境	地 勢	山地
	水 流	淀み
	水 質	普通
通 行	通行止	
文 化 財 登 録 の 有 無	有	
重 要 文 化 的 景 観 に お け る 重 要 構 成 要 素	該当	
代 替 橋 の 有 無	有	
過 去 5 年 間 の 修 復		
台 帳	橋 長	60.6m
	幅 員	2.5m
橋 脚	本 数	8.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



右岸下流側より (H22.9.14撮影)



右岸上流側より (H22.9.14撮影)



橋についてのワンポイントメモ

現存する沈下橋では最も古い橋です。国の登録有形文化財（建造物）に指定されています。壺斗俵と米奥集落を結ぶ橋で、この橋が架かるまでは渡し船が運航されていました。以前は、通学や買い物などの日々の往来に利用されていましたが、現在は老朽化により車両は通行止めとなっています。

橋梁データ

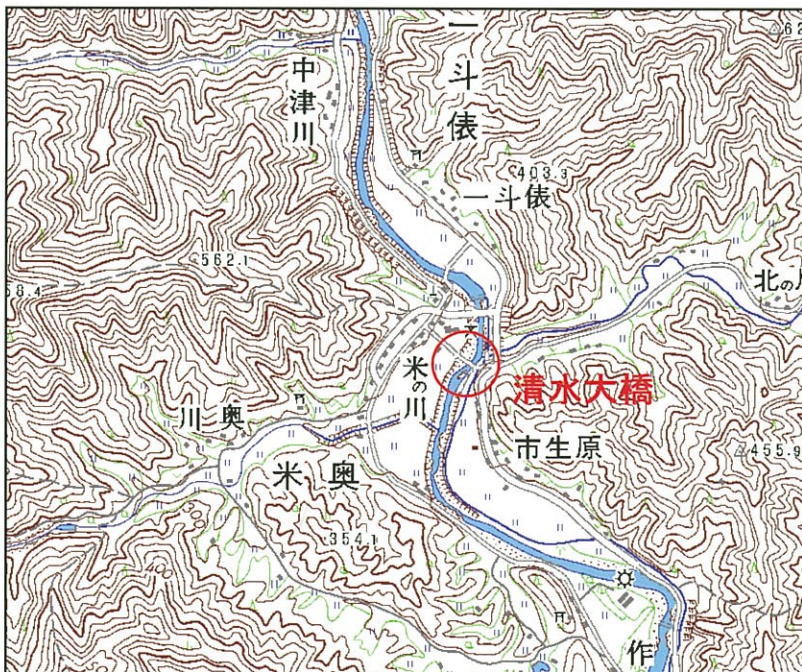
管理者名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町米奥	
架橋年度	昭和40年	
路線名	町道米奥北ノ川線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地勢	平地
	水流	急流
	水質	普通
通行	通行止	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	有	
過去5年間の修復		
台帳	橋長	102.1m
	幅員	2.8m
橋脚	本数	16.0本
	構造	鉄筋コンクリート
	形状	直方体
床版	厚さ	30.0cm
	天端高	10.0cm
	形状	直方体



左岸上流側より (H22.9.14撮影)



左岸下流側より (H22.9.14撮影)



橋についてのワンポイントメモ

上流域では一番長い沈下橋です。鮎の友掛けの好漁場で、橋の上からおとり鮎の動きがよく見えるため、釣り人や見物人の賑やかな風景が見られます。現在は、老朽化により車両通行止めとなっています。

橋梁データ

管理者名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町弘瀬	
架橋年度	昭和38年	
路線名	町道弘瀬7号線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地勢	山地
	水流	普通
	水質	清
通行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台帳	橋長	62.1m
	幅員	2.5m
橋脚	本数	9.0本
	構造	鉄筋コンクリート
	形状	直方体
床版	厚さ	20.0cm
	天端高	10.0cm
	形状	直方体



右岸上流側より (H22.9.27撮影)



右岸下流側より (H22.9.27撮影)



橋についてのワンポイントメモ

弘瀬集落の本村と対岸を結ぶ沈下橋で、農作業や往来等地域の生活を支えています。
左岸側にはスロープがあり、夏は子供達の川遊びで賑わいます。
また、本流の沈下橋の中では、橋から水面までの距離が最も短いと感じられます。

橋梁データ

管理者名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町上宮	
架橋年度	昭和32年	
路線名	町道北ノ川上宮線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地勢	山地
	水流	普通
	水質	清
通行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台帳	橋長	85.1m
	幅員	2.9m
橋脚	本数	13.0本
	構造	鉄筋コンクリート
	形状	直方体
床版	厚さ	30.0cm
	天端高	10.0cm
	形状	直方体



左岸下流側より (H22.9.27撮影)



右岸上流側より (H22.9.27撮影)



橋についてのワンポイントメモ

大正北ノ川集落と上宮集落を結ぶ沈下橋です。上宮集落には上船戸、中船戸、下船戸の3ヶ所の渡し場があり、この橋が架けられるまでは渡し船が運航されていました。国道381号から望む場所にあり、四万十川と共に営みを続けてきた流域住民の文化を知る重要な景観となっています。

名称

むかいやまばし
⑧ 向山橋 (通称 / 上岡沈下橋) かみおか ちん か ばし

第1種沈下橋

橋梁データ

管理者名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町上岡	
架橋年度	昭和38年	
路線名	町道上岡打井川線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地勢	山地
	水流	急流
	水質	清
通行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台帳	橋長	60.0m
	幅員	3.7m
橋脚	本数	3.0本
	構造	鉄筋コンクリート
	形状	直方体
床版	厚さ	50.0~120.0cm
	天端高	10.0cm
	形状	直方体



左岸下流側より (H22.9.27撮影)



左岸上流側より (H22.9.27撮影)



橋についてのワンポイントメモ

上岡集落の本村と対岸の向山を結ぶ沈下橋で、地元では「上岡沈下橋」とも呼ばれています。
 この橋は急流に架かるため水の抵抗を考慮した曲線形状となっているのが特徴で、力強く、美しい独特の構造から個性的な橋として知られています。

橋梁データ

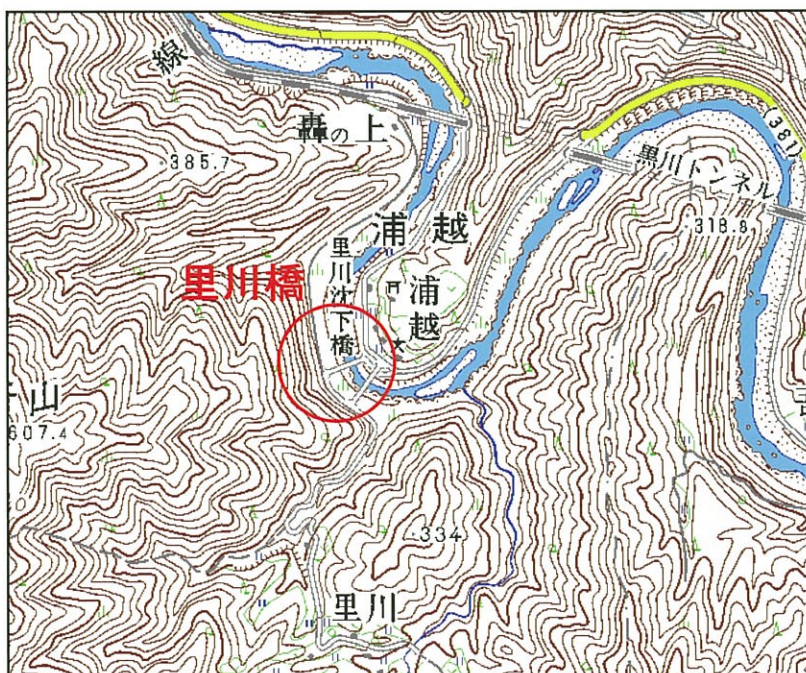
管 理 者 名	四万十町長	
所 在 市 町 村 ・ 字 名	四万十町浦越	
架 橋 年 度	昭和 29 年	
路 線 名	町道里川線	
横 断 する 河 川 名	四万十川 本川	
周 辺 環 境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	普通
通 行	歩行者通行可	
文化財登録の有無	有	
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	有	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	84.0 m
	幅 員	3.0 m
橋 脚	本 数	13.0 本 (欠1)
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



右岸上流側より (H22.9.27撮影)



左岸下流側より (H22.9.27撮影)



橋についてのワンポイントメモ

建設当初は、橋脚は13本でしたが洪水により度々流出したため、中央部の橋脚を1本空けて復旧すると流出が無くなったことから、橋脚の幅が不均等になっています。車両通行止めとなっています。国の登録有形文化財（建造物）に指定されています。

名称

しんたにばし
10 新谷橋 (通称 / 茅吹手沈下橋)
かやぶくてちんかばし

第1種沈下橋

橋梁データ

管 理 者 名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町津賀	
架 橋 年 度	昭和 45 年	
路 線 名	町道里川屋敷線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	普通
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	84.0 m
	幅 員	3.0 m
橋 脚	本 数	5.0 本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	90.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



右岸上流側より (H22.9.16撮影)



左岸下流側より (H22.9.16撮影)



橋についてのワンポイントメモ

地元では「茅吹手沈下橋」と呼ばれ、橋が架かるまでは渡し船が運航されていました。

この沈下橋は、平成9年のJR「フルムーンポスター」に利用され、俳優の加山雄三夫妻がロケに訪れました。

橋梁データ

管理者名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町昭和	
架橋年度	昭和41年	
路線名	町道昭和戸口線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地勢	山地
	水流	普通
	水質	普通
通行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台帳	橋長	77.0 m
	幅員	3.3 m
橋脚	本数	5.0本
	構造	鉄筋コンクリート
	形状	直方体
床版	厚さ	50.0cm
	天端高	10.0cm
	形状	直方体



左岸上流側より (H22.9.16撮影)



右岸下流側より (H22.9.16撮影)



橋についてのワンポイントメモ

四万十川最大の中州である三島を結ぶ沈下橋で国道381号側が第一三島橋、対岸の轟集落側が第二三島橋です。

中州は水田として利用されており、以前は渡し船で往来していましたが、沈下橋完成後は農作業も大きく向上しました。

中州にはキャンプ場があります。

名称

だいにみしまばし
12 第二三島橋

第1種沈下橋

橋梁データ

管理者名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町昭和	
架橋年度	昭和42年	
路線名	町道昭和戸口線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地勢	山地
	水流	急流
	水質	普通
通行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	有	
過去5年間の修復		
台帳	橋長	55.0m
	幅員	3.3m
橋脚	本数	4.0本
	構造	鉄筋コンクリート
	形状	直方体
床版	厚さ	50.0cm
	天端高	10.0cm
	形状	直方体



右岸下流側より (H22.9.16撮影)



右岸上流側より (H22.9.16撮影)



橋についてのワンポイントメモ

四万十川は中州、三島で分流され、右岸側が第一三島橋、左岸側が第二三島橋です。以前は渡し船が運航されており、左岸側は急流で「轟の瀬」と呼ばれ、古来より往来の難所として知られていました。中州、三島という独特の地形の中での農業は、四万十川に季節ごとの彩を添えています。

橋梁データ

管 理 者 名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐半家	
架 橋 年 度	昭和35年	
路 線 名	市道川平半家線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	急峻
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	124.5m
	幅 員	3.3m
橋 脚	本 数	15.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	45.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



右岸下流側より (H22.9.14撮影)



左岸上流側より (H22.9.14撮影)



橋についてのワンポイントメモ

四万十川ウルトラマラソンに代表される撮影ポイント。右岸側は河床に岩盤が露出しており水は橋中心部に集中し、やや急流となっています。上流部にある高い位置の抜水橋と水辺に近い沈下橋が同時に見られる景色のよい場所です。

橋梁データ

管 理 者 名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐半家	
架 橋 年 度	昭和51年	
路 線 名	市道本村中半家線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	2輪車以下通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	有	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	125.9m
	幅 員	4.3m
橋 脚	本 数	9.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	60.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



左岸下流側より(H22.9.14撮影)



右岸上流側より(H22.9.14撮影)



橋についてのワンポイントメモ

沈下橋、抜水橋、JR鉄橋の三橋が平行にかかる珍しい場所です。現在、車輛は通行止となっているので、のんびり歩いて渡りながら、橋の真ん中で、寝そべって四万十川と会話をするには最高の沈下橋です。

橋梁データ

管 理 者 名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐長生	
架 橋 年 度	昭和35年	
路 線 名	市道半家長生線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復	H21.8/8/10台風9号により被災 H22.2月修復	
台 帳	橋 長	120.0m
	幅 員	3.3m
橋 脚	本 数	9.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	50.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



左岸上流側より (H22.9.14撮影)



右岸下流側より (H22.9.14撮影)



橋についてのワンポイントメモ

一部台風により流失しましたがすぐに復旧し、現在も現役で活躍している沈下橋です。
キャンプやカヌーで観光客が多く訪れます。

名称

いわま おおはし
16 岩間大橋

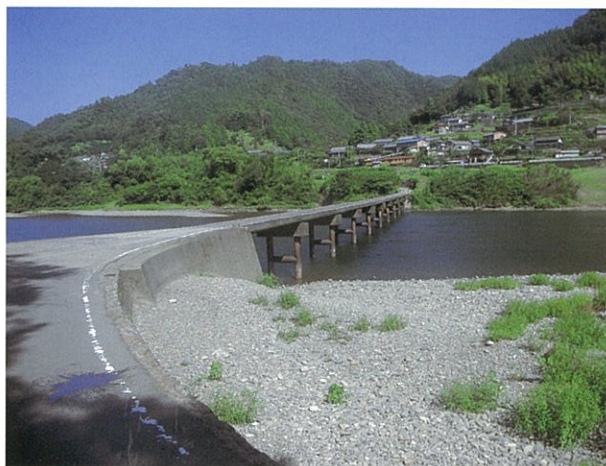
第1種沈下橋

橋梁データ

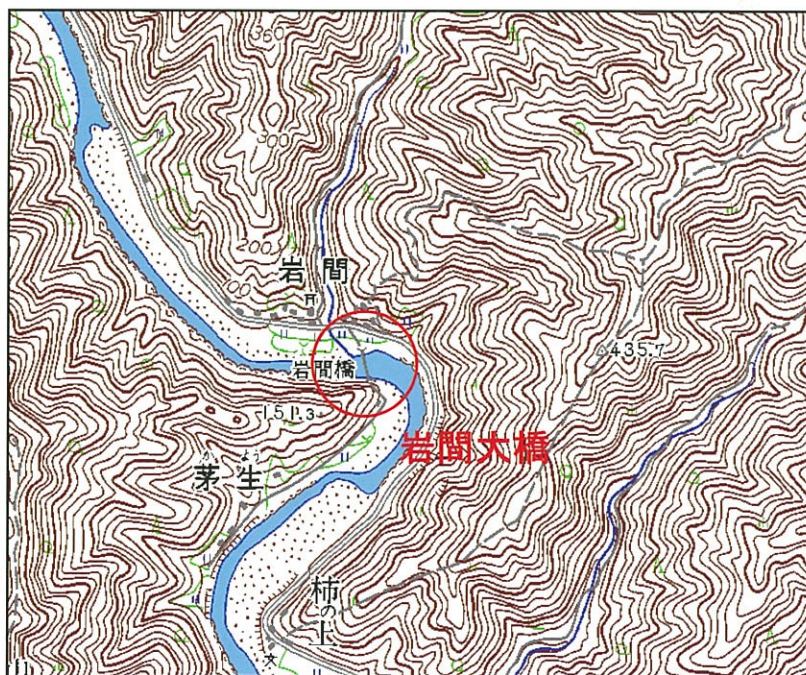
管理者名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐岩間	
架橋年度	昭和41年	
路線名	市道岩間茅生線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地勢	急峻
	水流	普通
	水質	普通
通行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台帳	橋長	120.0m
	幅員	3.5m
橋脚	本数	9.0本
	構造	鋼管
	形状	直方体+丸
床版	厚さ	50.0cm
	天端高	10.0cm
	形状	直方体



左岸下流側より (H22.9.14撮影)



右岸下流側より (H22.9.14撮影)



橋についてのワンポイントメモ

ポスターやパンフレットでおなじみの沈下橋です。鏡のような清流に青い空と緑の山々が映し出され、最高に風景のよい場所です。右岸下流側は河原となっており、キャンプするのに最適です。

名称

や ない おおはし
17 屋内大橋 (通称 ぐちや ないちん かばし
 口屋内沈下橋)

第1種沈下橋

橋梁データ

管 理 者 名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐口屋内	
架 橋 年 度	昭和30年	
路 線 名	市道口屋内宇和島線屋内大橋支線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	普通
通 行	H.22.8.28から沈下により通行止	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	有	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	241.3m
	幅 員	4.05m
橋 脚	本 数	9.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	80.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



右岸下流側より (H22.9.13撮影)



左岸下流側より (H22.9.13撮影)



橋についてのワンポイントメモ

H22.8月から沈下し、現在は通行止めとなっています。
 秘境黒尊川へと渡る沈下橋であり
 早急な復旧が待たれます。

名称

かつまばし
18 勝間橋 (通称/ 鶉ノ江沈下橋)

第1種沈下橋

橋梁データ

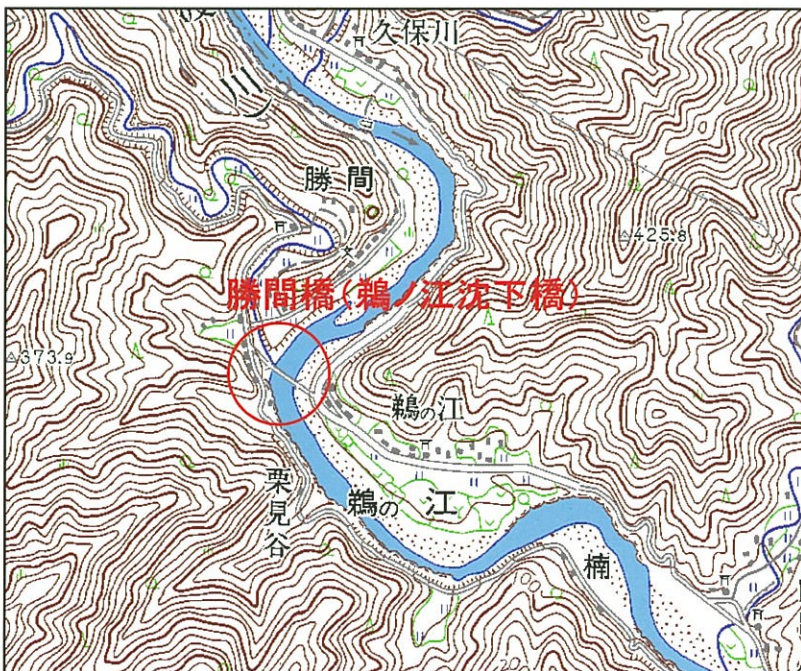
管 理 者 名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市平本	
架 橋 年 度	昭和40年	
路 線 名	市道鶉ノ江久保川線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	171.4m
	幅 員	4.4m
橋 脚	本 数	14.0本
	構 造	鋼管
	形 状	直方体+丸
床 版	厚 さ	50.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



左岸下流側より (H22.9.13撮影)



左岸上流側より (H22.9.13撮影)



橋についてのワンポイントメモ

橋脚が鋼管でできている沈下橋は四万十川本川に5箇所ありますがこの沈下橋だけ橋脚が3本でつづられています。川幅が広く、水はゆっくりと流れています。右岸側は河原となっているので、キャンプには最適な場所です。平成15年の釣りバカ日誌14の撮影場所として有名です。

橋梁データ

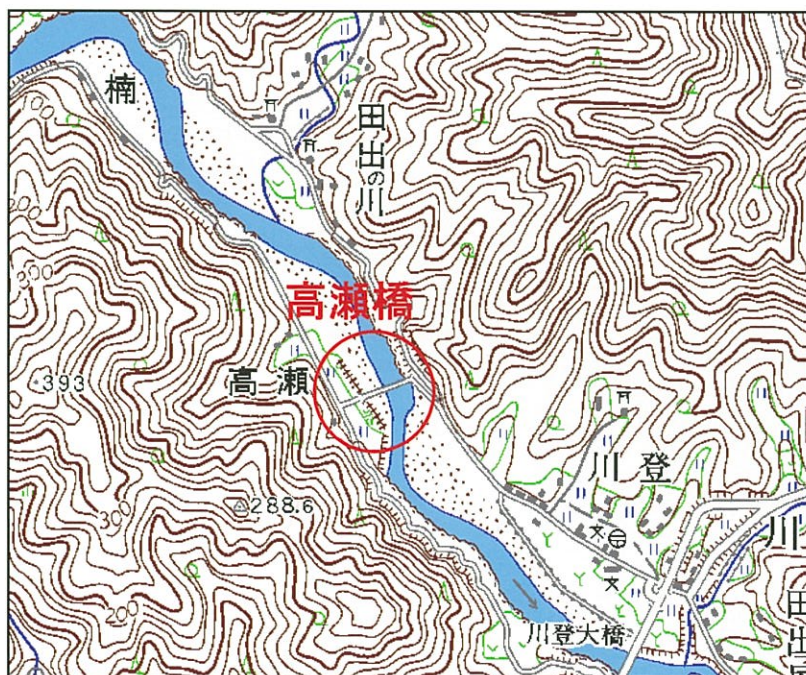
管 理 者 名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市下入道	
架 橋 年 度	昭和48年	
路 線 名	市道高瀬線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	232.3m
	幅 員	3.4m
橋 脚	本 数	14.0本
	構 造	鋼管
	形 状	直方体+丸
床 版	厚 さ	65.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



右岸下流側より (H22.9.13撮影)



左岸下流側より (H22.9.13撮影)



橋についてのワンポイントメモ

この橋も鋼管の橋脚で作られています。川幅も広く、清流がゆっくりと流れ、時がたつのを忘れそうなくらいです。

橋梁データ

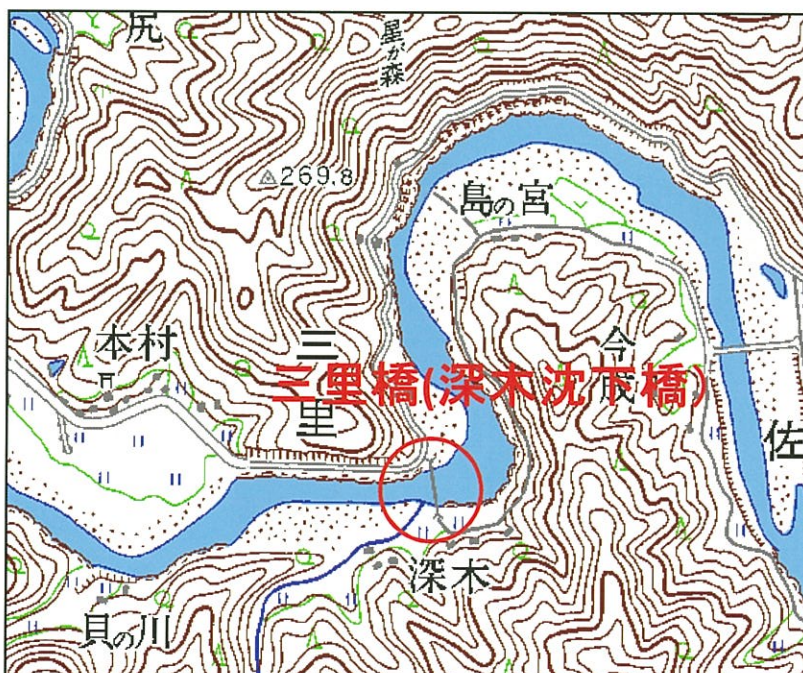
管理者名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市能ヶ渡	
架橋年度	昭和38年	
路線名	市道具同三里線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地勢	山地
	水流	普通
	水質	清
通行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台帳	橋長	145.8m
	幅員	3.3m
橋脚	本数	120本
	構造	鋼管
	形状	直方体+丸
床版	厚さ	50.0cm
	天端高	10.0cm
	形状	直方体



左岸下流側より (H22.9.13撮影)



右岸上流側より (H22.9.13撮影)



橋についてのワンポイントメモ

左岸下流側に広い河原があり、沈下橋を下り、散歩しながらゆっくりと見ることができます。キャンプするには良い場所ですが河原には、車輛は進入できません。

名称

いまなりばし
21 今成橋 (通称 / 佐田沈下橋)
さだちんかばし

第1種沈下橋

橋梁データ

管理者名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市今成向イ	
架橋年度	昭和46年	
路線名	市道佐田今成線	
横断する河川名	四万十川 本川	
周辺環境	地勢	山地
	水流	普通
	水質	清
通行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台帳	橋長	291.6m
	幅員	4.2m
橋脚	本数	19.0本
	構造	鋼管
	形状	直方体+丸
床版	厚さ	60.0cm
	天端高	10.0cm
	形状	直方体



右岸上流側より (H22.9.13撮影)



左岸下流側より (H22.9.13撮影)



橋についてのワンポイントメモ

四万十川最下流の沈下橋です。川幅も約300mあり、四万十市内から近く、多くの観光客が訪れます。屋形船に乗り沈下橋をバックに結婚式を挙げるなどよくテレビなどで放映されています。

橋梁データ

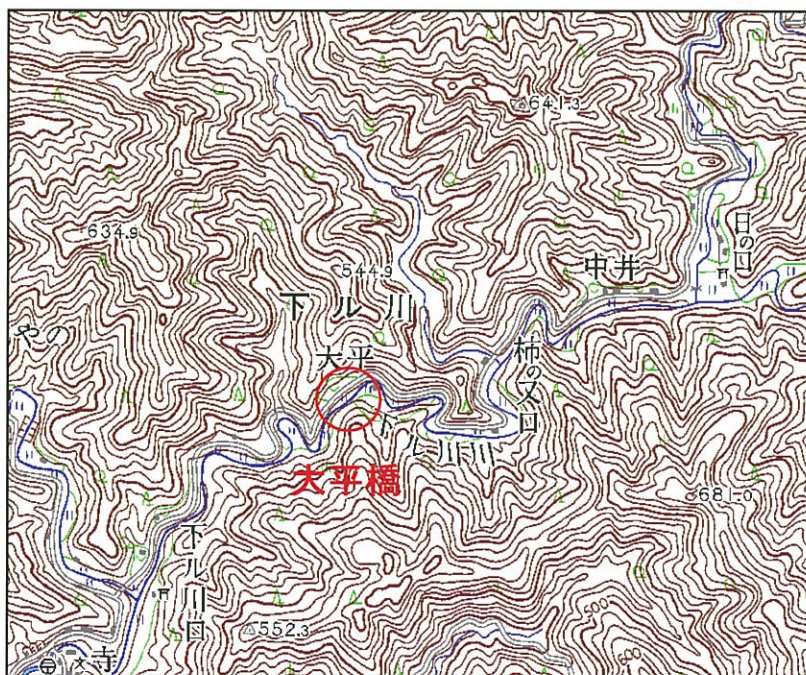
管 理 者 名	中土佐町長	
所在市町村・字名	中土佐町大野見下ル川	
架 橋 年 度	昭和45年	
路 線 名	農道大平線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川下ル川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	2 輪車以下通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	14.0m
	幅 員	2.0m
橋 脚	本 数	1.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



右岸上流側より (H22.9.14撮影)



左岸下流側より (H22.9.14撮影)



橋についてのワンポイントメモ

第一次支川下ル川に架かるただ一つの沈下橋です。
山間部の中にあり人家も少なく清流が流れています。
地図にも記載が無く自然の中に溶け込んでいる為、見過ごしてしまいそうになります。

橋梁データ

管 理 者 名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町寺野	
架 橋 年 度	昭和39年	
路 線 名	町道川口中屋敷線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川井細川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	急流
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	20.4m
	幅 員	2.0m
橋 脚	本 数	2.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



右岸下流側より (H22.9.27撮影)



左岸側より (H22.9.27撮影)



橋についてのワンポイントメモ

右岸の寺野集落と対岸を結ぶ沈下橋で、農作業や往来に利用されています。周辺にキャンプに来る人もいます。

橋梁データ

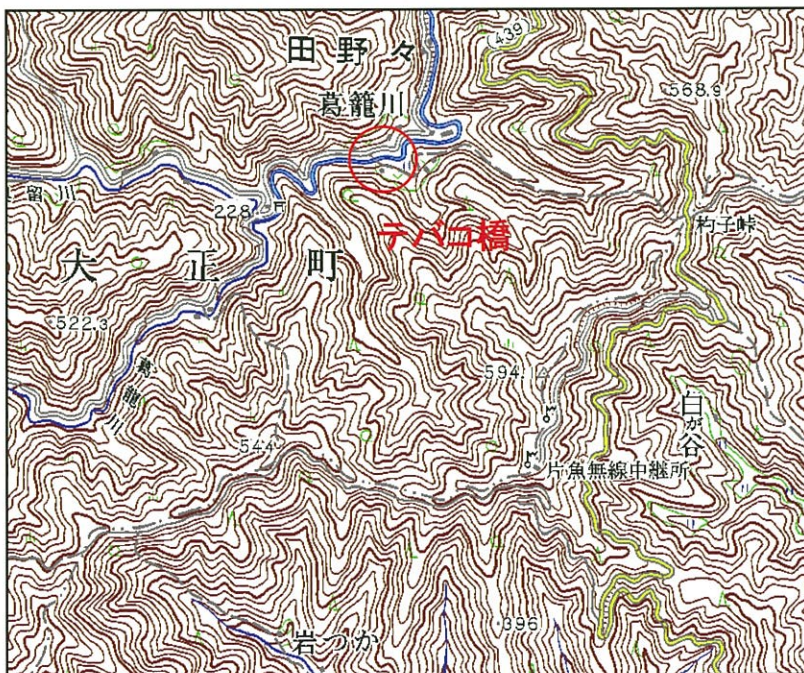
管理者名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町大正	
架橋年度	不明	
路線名	町道葛籠川4号線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川葛籠川	
周辺環境	地勢	山地
	水流	急流
	水質	清
通行	行き止まり	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	有	
過去5年間の修復		
台帳	橋長	14.0m
	幅員	2.9m
橋脚	本数	1.0本
	構造	鉄筋コンクリート
	形状	直方体
床版	厚さ	20.0cm
	天端高	データなし
	形状	直方体



左岸上流側より (H22.9.14撮影)



右岸下流側より (H22.9.14撮影)



橋についてのワンポイントメモ

左岸側の集落とを結ぶ歩道橋として架設されましたが、下流に永久橋が完成してからは、ほとんど利用されなくなりました。

橋梁データ

管理者名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町大正	
架橋年度	不明	
路線名	町道轟崎1号線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川葛籠川	
周辺環境	地勢	山地
	水流	急流
	水質	清
通行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台帳	橋長	11.0m
	幅員	2.5m
橋脚	本数	1.0本
	構造	鉄筋コンクリート
	形状	直方体
床版	厚さ	20.0cm
	天端高	データなし
	形状	直方体



下流側より (H22.9.14撮影)



左岸 下流側より (H22.9.14撮影)



橋についてのワンポイントメモ

左岸の集落から右岸の人家、農地とを結ぶ沈下橋で、現在も生活道として利用されています。

橋梁データ

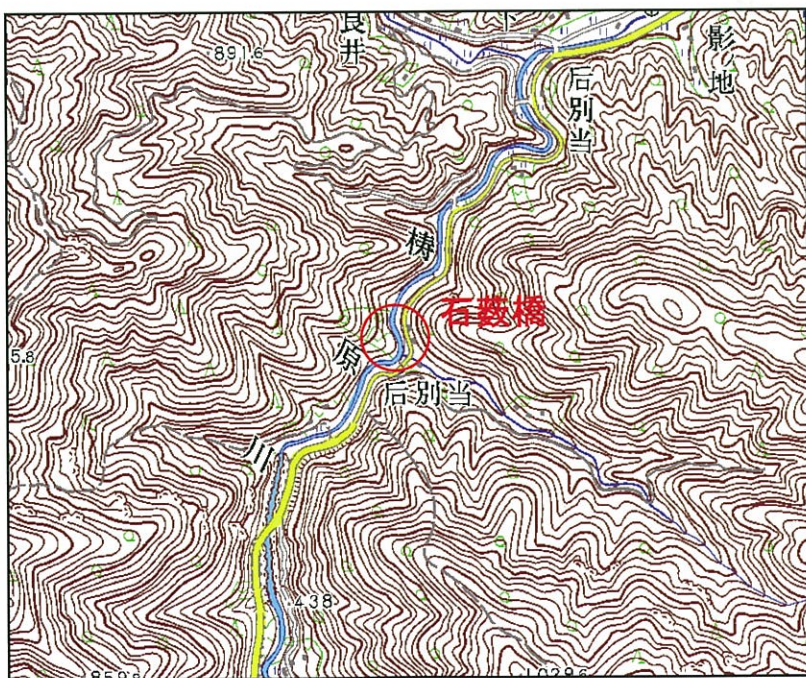
管 理 者 名	梶原町長	
所在市町村・字名	梶原町後別当	
架 橋 年 度	昭和48年	
路 線 名	町道石藪線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川梶原川	
周辺環境	地 勢	急峻
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	30.0m
	幅 員	3.0m
橋 脚	本 数	4.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	40.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



右岸上流側より (H22.9.13撮影)



右岸下流側より (H22.9.13撮影)



橋についてのワンポイントメモ

後別当集落の国道と対岸（右岸）を結ぶ沈下橋です。現在もよく利用されています。

橋梁データ

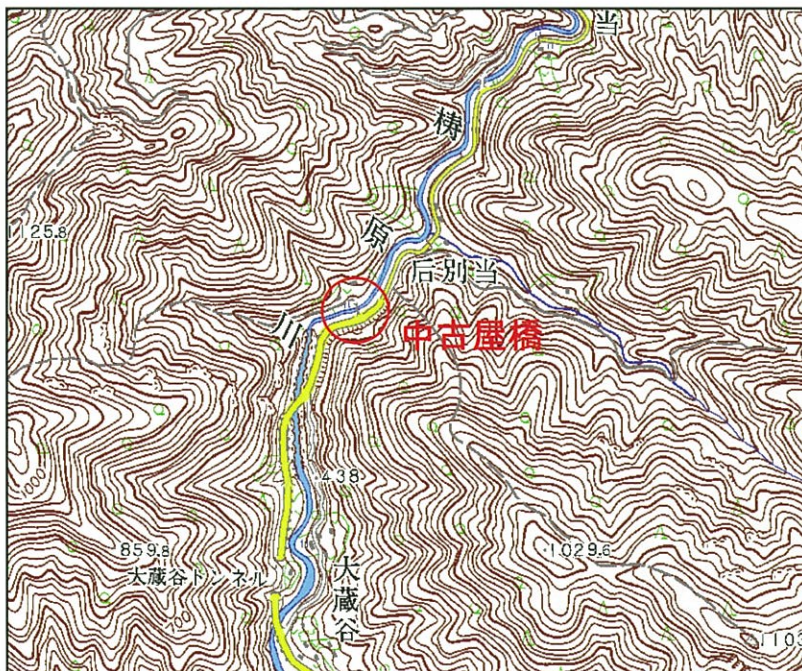
管理者名	梶原町長	
所在市町村・字名	梶原町後別当	
架橋年度	昭和34年	
路線名	町道後別当姥ヶ滝線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川梶原川	
周辺環境	地勢	急峻
	水流	普通
	水質	清
通行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	有	
過去5年間の修復		
台帳	橋長	30.0m
	幅員	2.8m
橋脚	本数	4.0本
	構造	鉄筋コンクリート
	形状	直方体
床版	厚さ	30.0cm
	天端高	10.0cm
	形状	直方体



左岸下流側より (H22.9.13撮影)



右岸上流側より (H22.9.13撮影)



橋についてのワンポイントメモ

国道から対岸の集落に渡る沈下橋です。現在は、国道改良工事及び下流に永久橋が架設されたことにより、歩道、二輪車道として利用されています。

名称

しんみちばし
28新道橋

第1種沈下橋

橋梁データ

管 理 者 名	栲原町長	
所在市町村・字名	栲原町川口	
架 橋 年 度	昭和50年	
路 線 名	町道川口新道線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川栲原川	
周辺環境	地 勢	急峻
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	24.0m
	幅 員	2.4m
橋 脚	本 数	3.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	35.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



右岸上流側より (H22.9.13撮影)



左岸下流側より (H22.9.13撮影)



橋についてのワンポイントメモ

川口の集落から対岸の集落に通ずる沈下橋で、毎日、生活道として利用されています。

橋梁データ

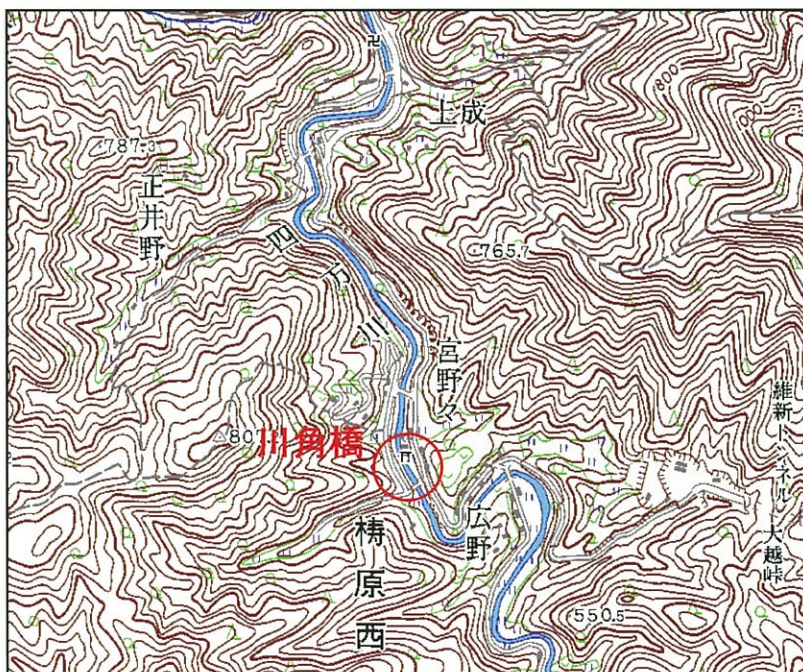
管 理 者 名	梶原町長	
所在市町村・字名	梶原町宮野々上	
架 橋 年 度	昭和35年	
路 線 名	町道宮野々上線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川梶原川 第2次支川四万川	
周辺環境	地 勢	急峻
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	有	
過去5年間の修復	平成17年の洪水に左岸側の床版が被災し修復	
台 帳	橋 長	29.9m
	幅 員	2.3m
橋 脚	本 数	4.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



左岸下流側より (H22.9.13撮影)



右岸上流側より (H22.9.13撮影)



橋についてのワンポイントメモ

県道から対岸の集落へ渡る沈下橋です。
下流側に永久橋が架設され、現在は通行量が少なくなりました。
平成17年の洪水に左岸側の床版が被災し修復しました。

名称

たけ やぶ ちん か ば し
30竹の藪沈下橋 (通称)

第1種沈下橋

橋梁データ

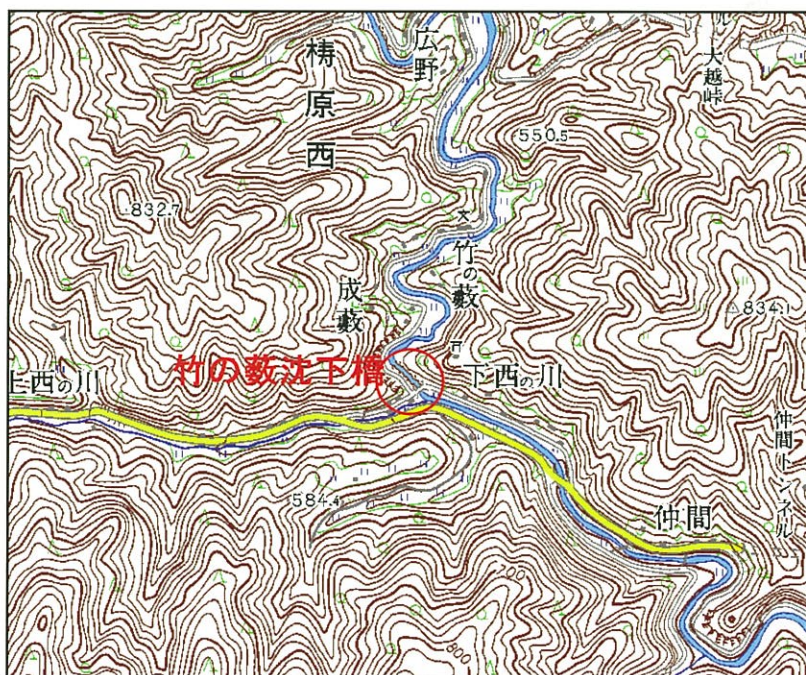
管 理 者 名	栲原町長	
所在市町村・字名	栲原町竹の藪	
架 橋 年 度	昭和54年	
路 線 名	農道成藪線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川栲原川 第2次支川四万川	
周辺環境	地 勢	急峻
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	歩道	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	有	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	30.2m
	幅 員	2.0m
橋 脚	本 数	4.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0 c m
	天 端 高	10.0 c m
	形 状	直方体



右岸 下流側より (H22.9.13撮影)



左岸 上流側より (H22.9.13撮影)



橋についてのワンポイントメモ

対岸の人家や農地に渡るために架設された橋です。
 沈下橋が架けられる以前は、左岸のエノキの大木に結ばれた一本橋が架けられていました。
 下流側に永久橋が完成したため、人の往来はほとんどなくなりました。

橋梁データ

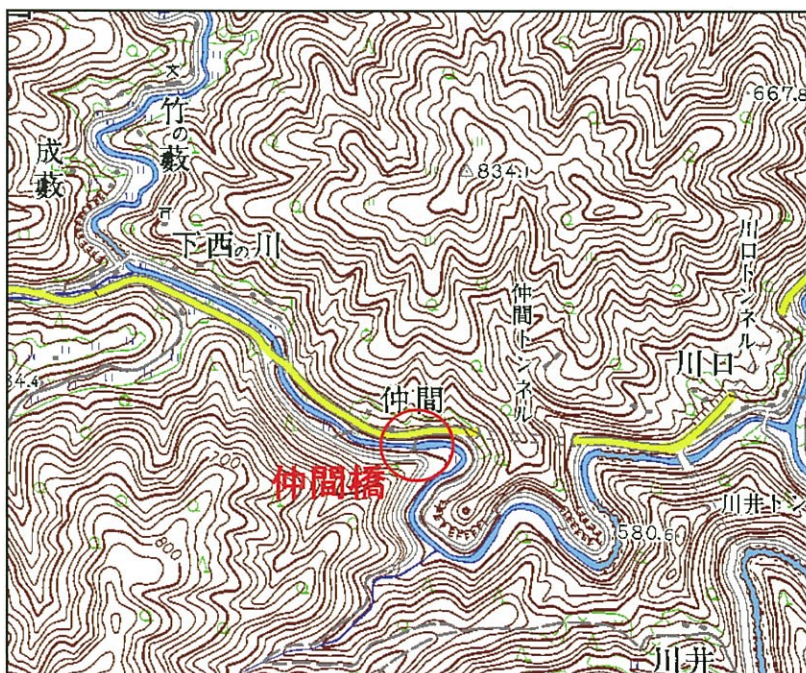
管理者名	栲原町長	
所在市町村・字名	栲原町仲間	
架橋年度	昭和48年	
路線名	農道仲間線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川栲原川 第2次支川四万川	
周辺環境	地勢	急峻
	水流	普通
	水質	清
通行	軽四輪車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台帳	橋長	42.0m
	幅員	1.5m
橋脚	本数	6.0本
	構造	鉄筋コンクリート
	形状	直方体
床版	厚さ	30.0cm
	天端高	10.0cm
	形状	直方体



左岸上流側より (H.22.9.13 撮影)



左岸下流側より (H.22.9.13 撮影)



橋についてのワンポイントメモ

国道沿いに栲原川が流れ、対岸に渡る橋です。

対岸(右岸)には農地があり、主に農道として利用されています。

名称

なかくぼちんかばし
32 仲久保沈下橋 (通称)

第1種沈下橋

橋梁データ

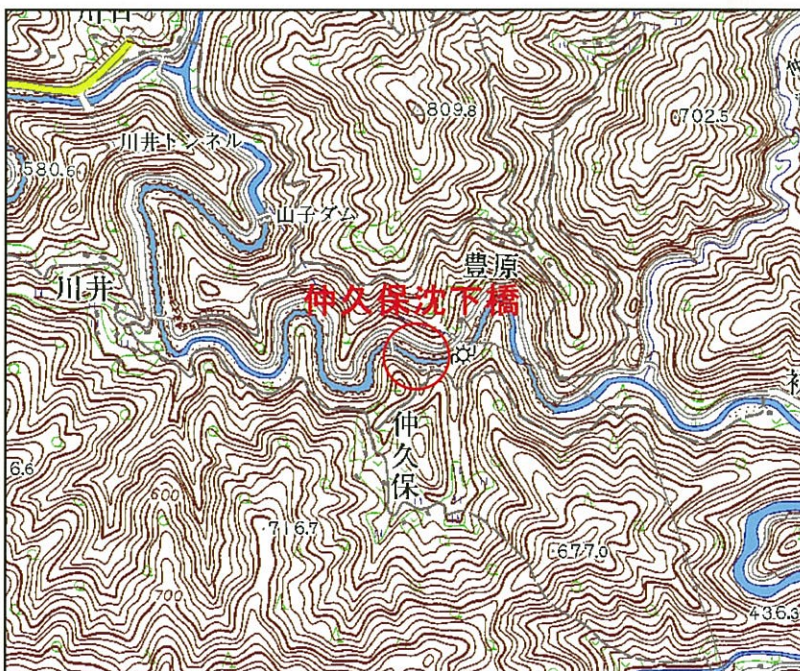
管理者名	栲原町長	
所在市町村・字名	栲原町仲久保	
架橋年度	昭和58年	
路線名	町道山子仲久保線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川栲原川	
周辺環境	地勢	急峻
	水流	普通
	水質	清
通行	歩道	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	有	
過去5年間の修復		
台帳	橋長	30.0m
	幅員	2.2m
橋脚	本数	4.0本
	構造	鉄筋コンクリート
	形状	直方体
床版	厚さ	35.0cm
	天端高	10.0cm
	形状	直方体



左岸上流側より (H.22.9.13 撮影)



左岸下流側より (H.22.9.13撮影)



橋についてのワンポイントメモ

県道と対岸を結ぶ歩道沈下橋です。金剛橋とも呼ばれています。上流に永久橋が完成したため、現在は利用者がほとんどいません。

名称

なかひらちんかばし
33 中平沈下橋 (通称)

第1種沈下橋

橋梁データ

管理者名	栲原町長	
所在市町村・字名	栲原町大向	
架橋年度	昭和31年	
路線名	農道大向山城線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川栲原川	
周辺環境	地勢	急峻
	水流	普通
	水質	清
通行	歩道	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	有	
過去5年間の修復		
台帳	橋長	32.5m
	幅員	2.0m
橋脚	本数	40本
	構造	鉄筋コンクリート
	形状	直方体
床版	厚さ	30.0cm
	天端高	10.0cm
	形状	直方体



左岸上流側より (H.22.9.13 撮影)



右岸下流側より (H.22.9.13撮影)



橋についてのワンポイントメモ

県道と対岸を結ぶ歩道沈下橋です。上流に永久橋が完成したため、現在は利用者が少ないです。

橋梁データ

管 理 者 名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町木屋ヶ内	
架 橋 年 度	昭和28年	
路 線 名	町道木屋ヶ内2号線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川梶原川	
周辺環境	地 勢	急峻
	水 流	急流
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無	有	
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	27.4m
	幅 員	3.0m
橋 脚	本 数	3.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



左岸上流側より (H.22.9.27撮影)



左岸下流側より (H.22.9.27撮影)



橋についてのワンポイントメモ

国道と対岸を結ぶ沈下橋ですが、橋が架かるまでは渡し船が運航されていました。
3本の橋脚のうち、2本は自然の岩を利用しており、強固さと経費軽減を図っているのが特徴です。
国の登録有形文化財（建造物）に指定されています。

名称

ばし
③5 サワタリ橋

第2種沈下橋

橋梁データ

管 理 者 名	四万十町長	
所在市町村・字名	四万十町大正中津川	
架 橋 年 度	不明	
路 線 名	町道中津川1号線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川袴原川 第2次支川中津川	
周辺環境	地 勢	山地
	水 流	急流
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	22.2m
	幅 員	2.3m
橋 脚	本 数	3.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	20.0 c m
	天 端 高	データなし
	形 状	直方体



左岸下流側より (H22.9.13撮影)



左岸上流側より (H22.9.13撮影)



橋についてのワンポイントメモ

中津川本村と対岸の水田や川内神社、茶道とを結ぶ地下橋で、現在でも地元住民には欠かせない橋です。かつては、中津川本村と大正大奈路木屋ヶ内、下津井へ至る道路として重要な役割を果たしていました。

橋梁データ

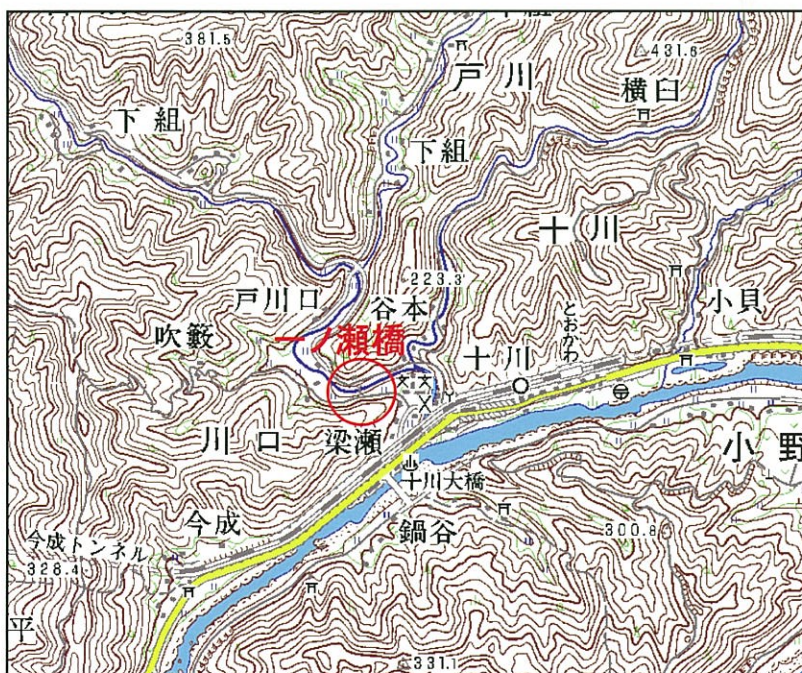
管 理 者 名	四万十町長	
所 在 市 町 村・ 字 名	四万十町十和川口	
架 橋 年 度	昭和33年	
路 線 名	町道	
横 断 する 河 川 名	四万十川 第1次支川長沢川	
周 辺 環 境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	歩道	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	建設中	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	23.0m
	幅 員	2.0m
橋 脚	本 数	3.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	データなし
	天 端 高	データなし
	形 状	直方体



左岸下流側より (H22.9.16撮影)



右岸上流側より (H22.9.16撮影)



橋についてのワンポイントメモ

兩岸を結ぶ歩道橋として利用されている。
下流側に永久橋が架設されており、完成間近である。

橋梁データ

管 理 者 名	四万十市長	
所 在 市 町 村 ・ 字 名	四万十市西土佐西ヶ方	
架 橋 年 度	昭和40年	
路 線 名	市道金刀比羅線	
横 断 する 河 川 名	四万十川 第1次支川広見川	
周 辺 環 境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	普通
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	52.0m
	幅 員	3.0m
橋 脚	本 数	7.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	40.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



右岸下流側より (H22.9.14撮影)



左岸下流側より (H22.9.14撮影)



橋についてのワンポイントメモ

広見川に架かる沈下橋です。200 mほど上流に金刀比羅宮があり、愛媛県境から約500 mの下流に位置します。平地のため、水の流れがゆるやかです。

名称

③8 ^{ばし} **タニガミ橋** (通称 ^{とめがなろちんかばし} 留ヶ奈路沈下橋)

第1種沈下橋

橋梁データ

管理者名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐大宮	
架橋年度	昭和36年	
路線名	農道中ヶ市相ノ木線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川目黒川	
周辺環境	地勢	山地
	水流	普通
	水質	清
通行	歩道	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台帳	橋長	18.9m
	幅員	1.5m
橋脚	本数	1.0本
	構造	鉄筋コンクリート
	形状	直方体
床版	厚さ	50.0cm
	天端高	10.0cm
	形状	直方体



左岸下流側より (H22.9.14撮影)



右岸上流側より (H22.9.14撮影)



橋についてのワンポイントメモ

平成9年に一度流出し、平成10年に復旧した沈下橋です。10年以上の歳月により色あせており、付近の情景にも違和感なく溶け込んでいます。目黒川の最上流にある沈下橋であり、清流がさらさらと流れています。

名称

おきしたちんかばし
39 沖下沈下橋 (通称 / 上深田沈下橋)
 かみふかたちんかばし

第1種沈下橋

橋梁データ

管理者名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐大宮	
架橋年度	昭和35年	
路線名	農道沖下(仮称)線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川目黒川	
周辺環境	地勢	山地
	水流	普通
	水質	清
通行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台帳	橋長	13.5m
	幅員	2.2m
橋脚	本数	1.0本
	構造	鉄筋コンクリート
	形状	直方体
床版	厚さ	40.0cm
	天端高	10.0cm
	形状	直方体



右岸下流側より (H22.9.14撮影)



左岸下流側より (H22.9.14撮影)



橋についてのワンポイントメモ

渇水期でも、橋から水面までの間
 が約50cm程度しかなく、少しの雨
 でも水没してしまうくらい最も低
 い沈下橋です。
 普通車通行可となっていますが、
 橋の両端がカーブしている為、運
 転には少し勇気が要ります。

名称

かみながせばし
40 上長瀬橋

第2種沈下橋

橋梁データ

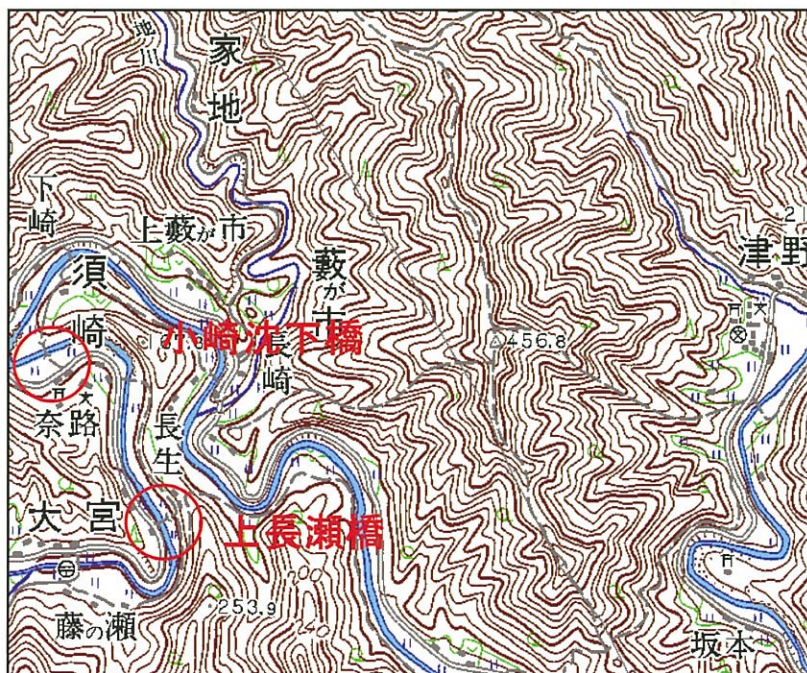
管理者名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐須崎	
架橋年度	昭和41年	
路線名	市道藪ヶ内須崎線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川目黒川	
周辺環境	地勢	山地
	水流	普通
	水質	清
通行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台帳	橋長	26.0m
	幅員	3.1m
橋脚	本数	3.0本
	構造	鉄筋コンクリート
	形状	直方体
床版	厚さ	40.0cm
	天端高	10.0cm
	形状	直方体



右岸下流側より (H22.9.14撮影)



左岸側より (H22.9.14撮影)



橋についてのワンポイントメモ

現在も生活道として重要な役割を担う沈下橋です。
 水の流れはゆるやかで透明度も高くきれいです。

橋梁データ

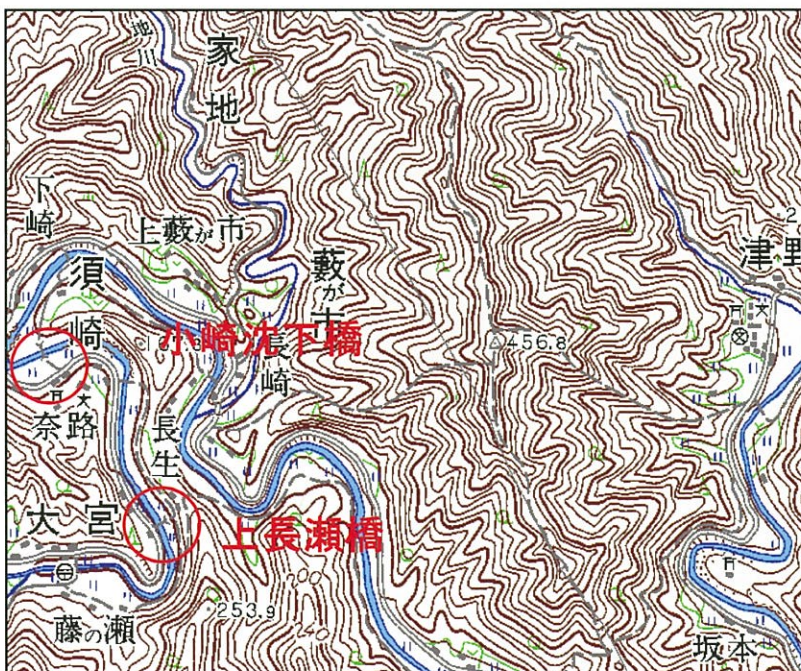
管理者名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐須崎	
架橋年度	昭和32年	
路線名	農道小崎線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川目黒川	
周辺環境	地勢	山地
	水流	普通
	水質	清
通行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台帳	橋長	21.9m
	幅員	2.1m
橋脚	本数	3.0本
	構造	鉄筋コンクリート
	形状	直方体
床版	厚さ	30.0cm
	天端高	10.0cm
	形状	直方体



右岸下流側より (H22.9.14撮影)



左岸側より (H22.9.14撮影)



橋についてのワンポイントメモ

県道から少し離れた場所にある為目立たないが、しっかりした沈下橋です。
周辺には須崎地区の集会所や民家が点在しています。

橋梁データ

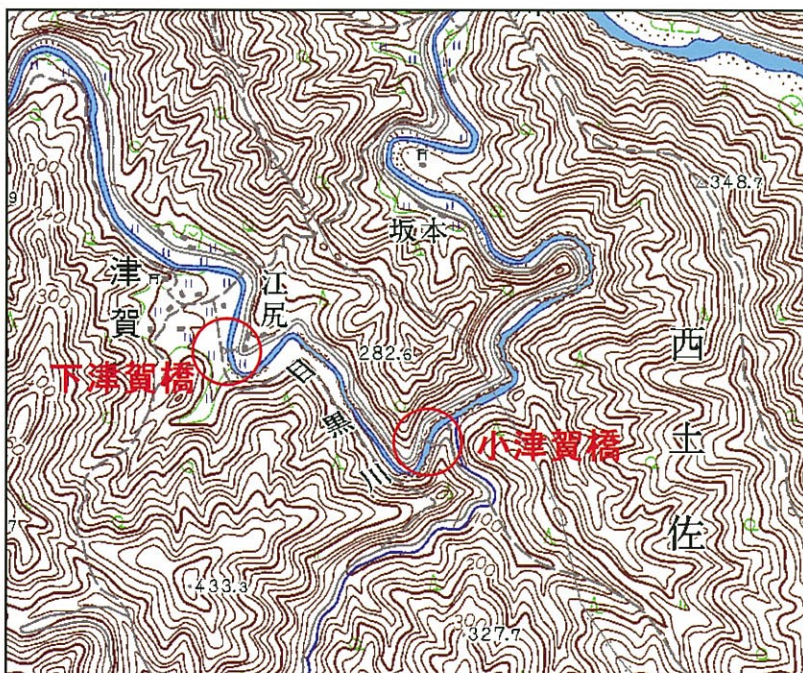
管 理 者 名	四万十市長	
所 在 市 町 村 ・ 字 名	四万十市西土佐津賀	
架 橋 年 度	昭和48年	
路 線 名	市道津野川大宮線津賀支線	
横 断 する 河 川 名	四万十川 第1次支川目黒川	
周 辺 環 境	地 勢	山地
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代 替 橋 の 有 無	無	
過 去 5 年 間 の 修 復		
台 帳	橋 長	27.0m
	幅 員	3.4m
橋 脚	本 数	1.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	55.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



右岸上流側より (H22.9.14撮影)



左岸下流側より (H22.9.14撮影)



橋についてのワンポイントメモ

山間を静かに流れる目黒川に架かる沈下橋です。
付近の河原もきれいで、泳ぐ魚もはっきりと見ることができます。

橋梁データ

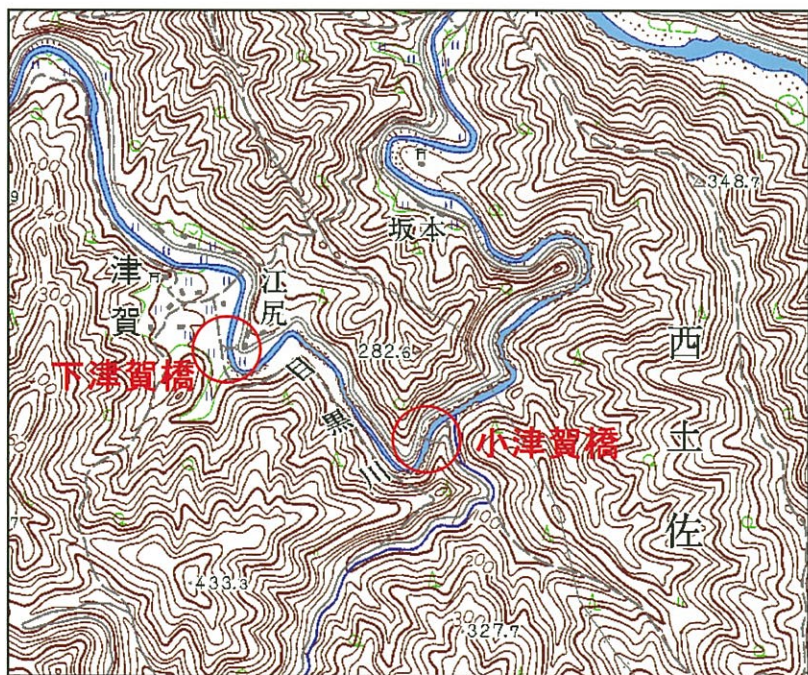
管 理 者 名	四万十市長	
所 在 市 町 村 ・ 字 名	四万十市西土佐津賀	
架 橋 年 度	昭和34年	
路 線 名	林道小津賀線	
横 断 する 河 川 名	四万十川 第1次支川目黒川	
周 辺 環 境	地 勢	急峻
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	42.0m
	幅 員	3.0m
橋 脚	本 数	7.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



左岸上流側より (H22.9.14撮影)



右岸下流側より (H22.9.14撮影)



橋についてのワンポイントメモ

目黒川に架かる沈下橋では最も長い沈下橋です。
川幅は広がりますが水が流れる場所は少ししかなく、ほとんどが玉石で構成される河原となっています。

橋梁データ

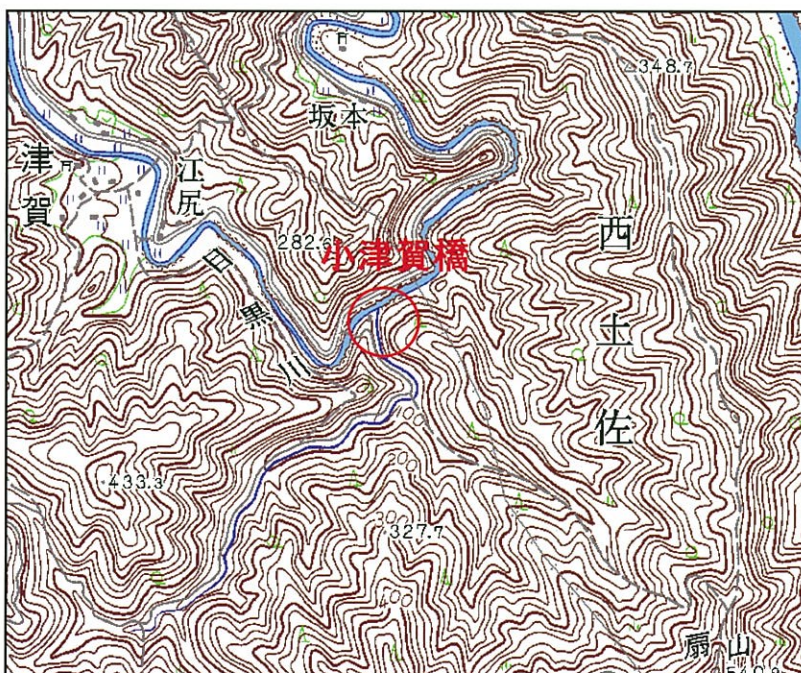
管理者名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐津賀	
架橋年度	不明	
路線名	市道津野川大宮線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川目黒川 第2次支川小津賀川	
周辺環境	地勢	急峻
	水流	普通
	水質	清
通行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台帳	橋長	9.0m
	幅員	2.2m
橋脚	本数	無
	構造	
	形状	
床版	厚さ	30.0cm
	天端高	10.0cm
	形状	直方体



右岸下流側より (H22.9.14撮影)



左岸上流側より (H22.9.14撮影)



橋についてのワンポイントメモ

2次支川小津賀川の最下流に位置する沈下橋です。

うっかりすれば見落とすくらい小さな橋であり、山林の中に溶け込んでいます。

名称

45 しらおうばし
白王橋 (通称/まつがたにちんかばし
 松ヶ谷沈下橋)

第2種沈下橋

橋梁データ

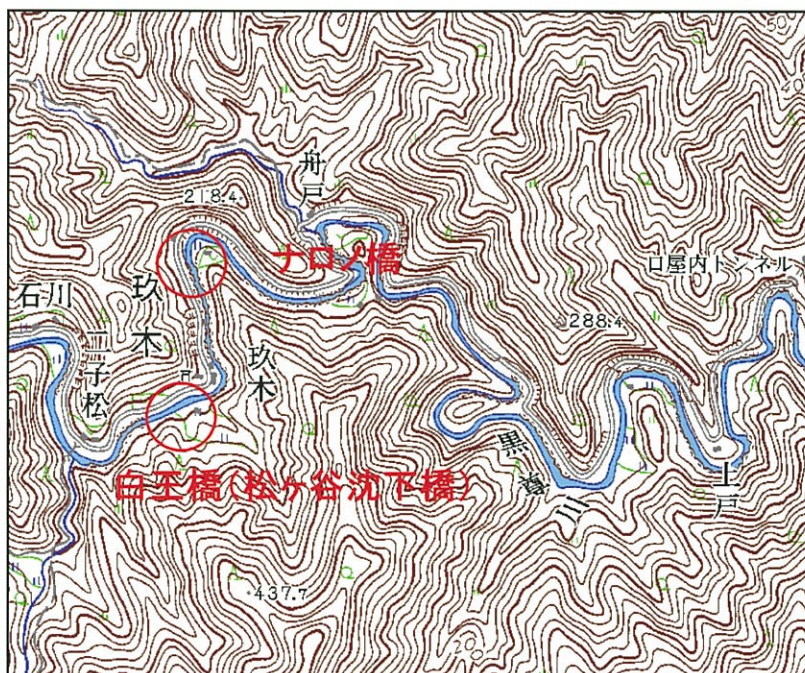
管 理 者 名	四万十市長	
所在市町村・字名	四万十市西土佐玖木	
架 橋 年 度	昭和42年	
路 線 名	農道白王線	
横断する河川名	四万十川 第1次支川黒尊川	
周辺環境	地 勢	急峻
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	20.8m
	幅 員	2.0m
橋 脚	本 数	1.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	50.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



右岸上流側より (H22.9.13撮影)



右岸下流側より (H22.9.13撮影)



橋についてのワンポイントメモ

四万十川の支流である黒尊川は高知県と愛媛県の県境である三本杭から発する河川であり、貴重な原生林など豊かな自然の中を流れる透明度が最も高いと思われる清流です。白王橋はこのような風景に違和感なく溶け込んでいます。

橋梁データ

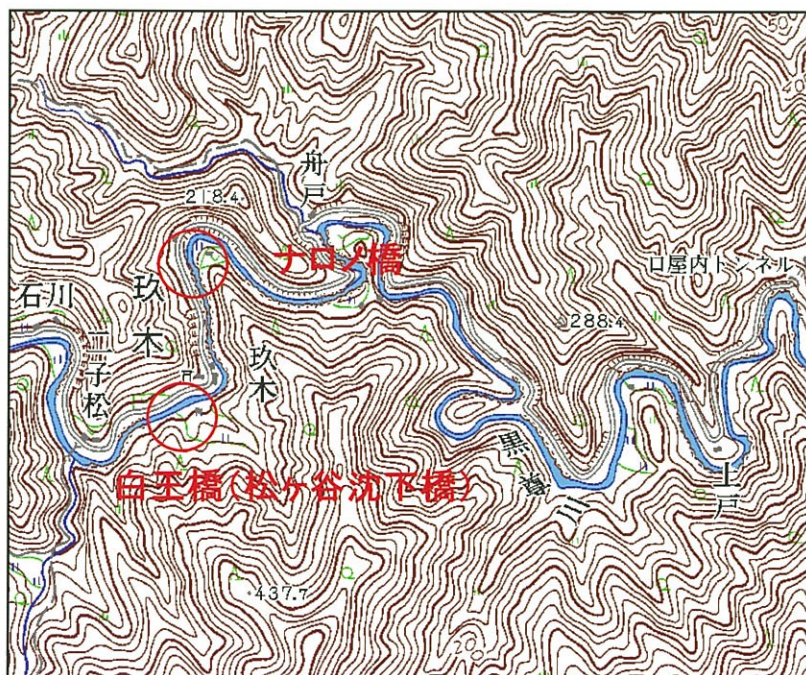
管 理 者 名	四万十市長	
所 在 市 町 村 ・ 字 名	四万十市西土佐玖木	
架 橋 年 度	昭和32年	
路 線 名	農道ナロノ線	
横 断 する 河 川 名	四万十川 第1次支川黒尊川	
周 辺 環 境	地 勢	急峻
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	29.7m
	幅 員	3.1m
橋 脚	本 数	4.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	1小判・3直方体
床 版	厚 さ	35.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



右岸下流側より (H22.9.13撮影)



右岸上流側より (H22.9.13撮影)



橋についてのワンポイントメモ

黒尊川に残る2つの内の沈下橋であり白王橋より約500m下流に位置します。
川底の石の色や大きさまではっきり肉眼で見ることのできる透明度です。

橋梁データ

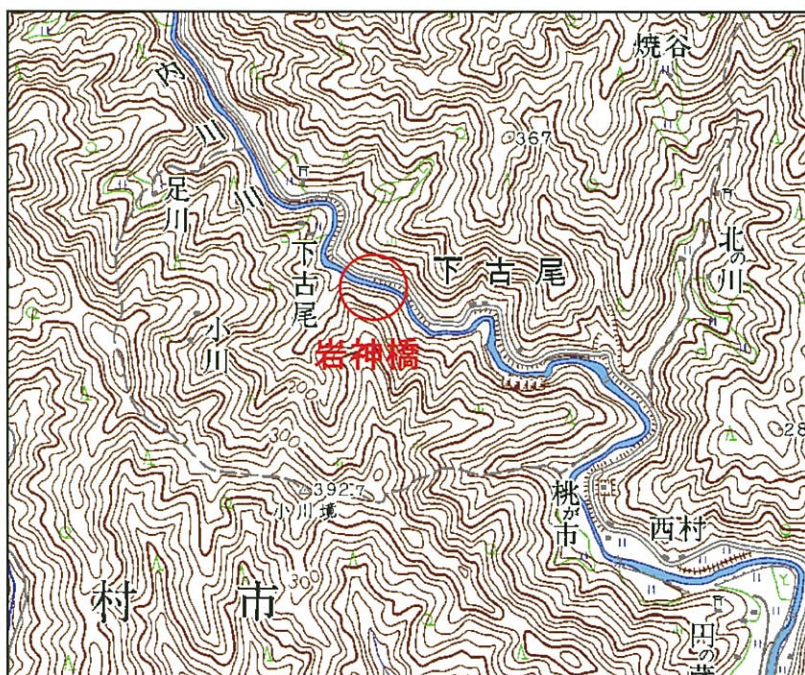
管 理 者 名	四万十市長	
所 在 市 町 村 ・ 字 名	四万十市下古尾	
架 橋 年 度	不明	
路 線 名	市道古尾小川線	
横 断 する 河 川 名	四万十川 第1次支川後川 第2次支川内川川	
周 辺 環 境	地 勢	急峻
	水 流	普通
	水 質	清
通 行	普通車通行可	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	無	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	23.1m
	幅 員	2.4m
橋 脚	本 数	3.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	データなし
	天 端 高	データなし
	形 状	データなし



左岸下流側より (H22.9.13撮影)



右岸上流側より (H22.9.13撮影)



橋についてのワンポイントメモ

第2次支川内川川に架かる沈下橋。自然豊かな山間部を流れている為、透明度が高く、ほっと一息付ける沈下橋です。

名称

わか い ちん か ぼ し
若井沈下橋 (沈下橋保存対象外沈下橋)

番外編

橋梁データ

管 理 者 名	四万十町	
所 在 市 町 村 ・ 字 名	四万十町若井	
架 橋 年 度	昭和40年	
路 線 名		
横 断 する 河 川 名	四万十川 本川	
周 辺 環 境	地 勢	平地
	水 流	普通
	水 質	普通
通 行	通行止	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素		
代替橋の有無	有	
過去5年間の修復		
台 帳	橋 長	85.0m
	幅 員	2.5m
橋 脚	本 数	11.0本
	構 造	鉄筋コンクリート
	形 状	直方体
床 版	厚 さ	30.0cm
	天 端 高	10.0cm
	形 状	直方体



右岸上流側より (H22.9.27撮影)



右岸下流側より (H22.9.27撮影)



橋についてのワンポイントメモ

現在は廃道となっており、町の道路台帳からも外れています。このため、「四万十沈下橋保存方針」の対象沈下橋ではありませんが、四万十町から四万十川を下っていると目に入ります。最近は鮎の好漁場のため、橋から網を投げる人も見られます。

名称

はやせばし
早瀬橋 (沈下橋原型)

番外編

橋梁データ

管理者名	芳生野百石会計	
所在市町村・字名	津野町芳生野	
架橋年度		
路線名		
横断する河川名	四万十川 第1次支川北山川	
周辺環境	地勢	急峻
	水流	普通
	水質	清
通行	人のみ	
文化財登録の有無		
重要文化的景観における重要構成要素	該当	
代替橋の有無		
過去5年間の修復		
台帳	橋長	25.0m
	幅員	65.0cm
橋脚	本数	
	構造	
床版	形状	
	厚さ	
	天端高	1.20m
	形状	



右岸側より (H22.9.27撮影)



左岸下流側より (H22.9.27撮影)



橋についてのワンポイントメモ

素朴な木橋で人しか通れません。大水の時には流されてしまいますが、橋の片側がワイヤーで繋がっており、水が引いた時にたぐり寄せ、再び石積みの橋脚上に乗せて復旧する、流れに逆らわない「沈下橋の原型」です。平成14年11月10日に木橋が架け替えられました。

四万十川沈下橋保存方針

(趣旨)

第一 高知県及び四万十川総合保全機構（以下「機構」という。）は、四万十川流域の魅力を形成している沈下橋（取り付け道を含む）について、清流四万十川総合プラン21（平成8年3月：高知県）（以下「プラン」という。）の「防災上、維持管理上支障のない沈下橋は保存を基本とする」方向に沿い、生活道に加え生活文化遺産として後世に引き継ぐため、「四万十川沈下橋保存方針」（以下「保存方針」という。）を策定する。

(対象)

第二 保存方針の対象とする沈下橋（以下「対象沈下橋」という。）は、高知県内の四万十川流域に存在する沈下橋のうち、四万十川流域市町村の道路台帳、農道台帳、及び林道台帳に記載されているものとする。

2 対象沈下橋は、文化的、景観的、親水的、観光、道路利用の価値及び河川流水阻害等を総合的に評価し、生活、文化、景観、親水、観光等の視点から重点的に保存すべき沈下橋（以下「第一種沈下橋」という。）とその他の沈下橋（以下「第二種沈下橋」という。）に区分し、その区分は、第五に規定する「四万十川沈下橋保存委員会」（以下「委員会」という。）において決定するものとする。

(管理)

第三 対象沈下橋の管理者（以下「管理者」という。）である市町村長は、保存方針に基づき適正に管理するものとする。

2 第一種沈下橋は、重点的に保存するため維持管理の徹底を図るとともに、災害で壊れた場合は、新たな架設について委員会の意見を聞くものとする。

3 第二種沈下橋は、維持管理に努めるとともに、災害で壊れた場合は保存方針の趣旨を踏まえ、管理者が地元の意見を聞き存廃を決定するものとする。

(抜水橋計画)

第四 管理者及び高知県が抜水橋（沈下橋代替橋を含む。以下同じ。）を計画するときは、保存方針及びプランの配慮指針を遵守するとともに、対象沈下橋の親水的、景観的等の価値や利用及び防災等に充分配慮するものとする。

2 管理者及び高知県が、対象沈下橋から概ね1 km以内に抜水橋を計画しようとするときは、事前に委員会の意見を聞くものとする。

(四万十川沈下橋保存委員会)

第五 高知県は、保存方針に基づく施策を推進するため、清流四万十川総合プラン21推進委員会（以下「推進委員会」という。）の下に、四万十川沈下橋保存委員会を置く。

2 委員会は、次の業務を担当する。

(一) 第一種沈下橋と第二種沈下橋の区分に関すること。

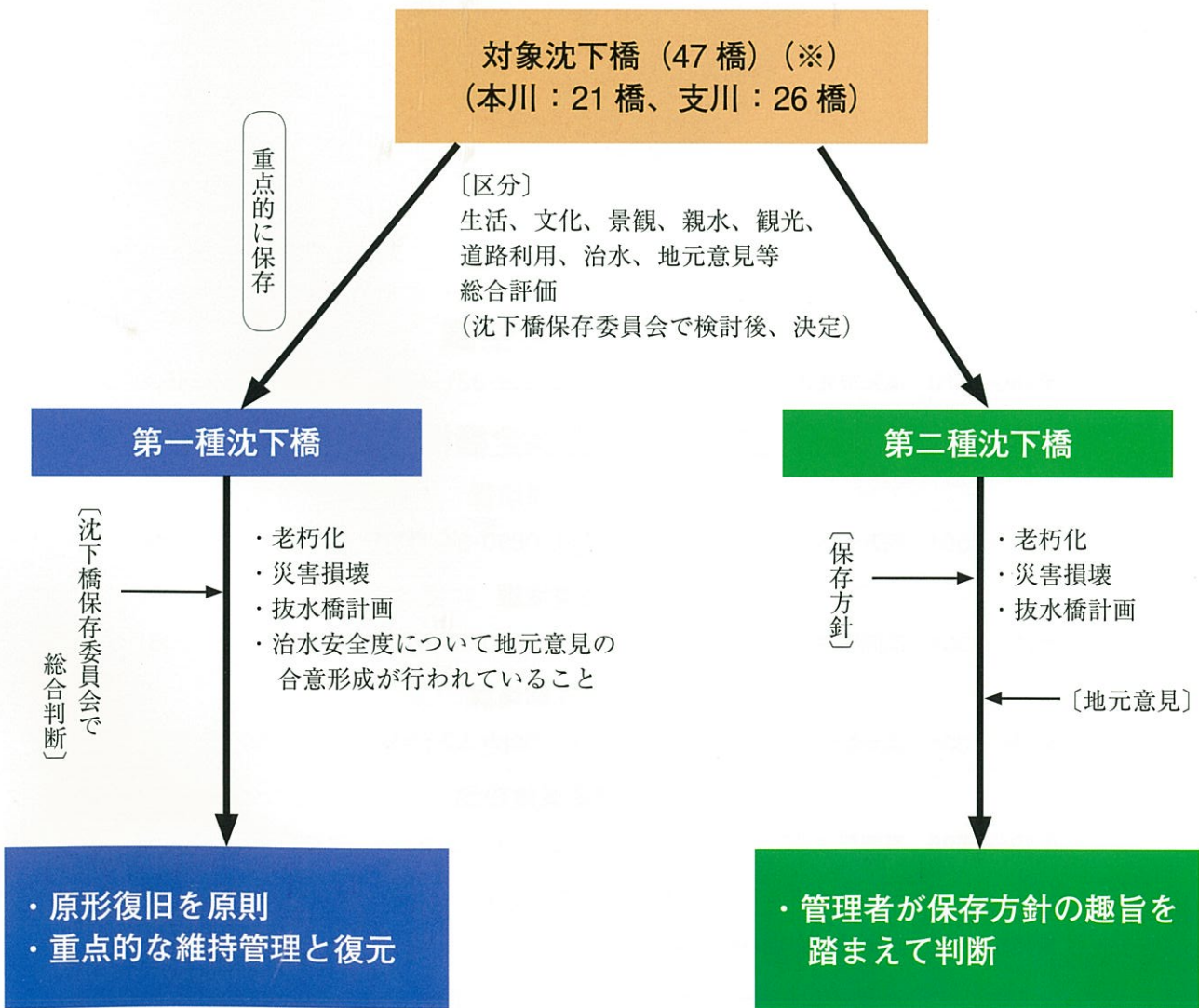
(二) 第一種沈下橋が壊れたときの対応に関すること。

- (三) 対象沈下橋周辺での排水橋計画に関すること。
- (四) その他、対象沈下橋に影響を及ぼす行為（軽微なものを除く。）に関すること。
- 3 委員会が前項の検討を行うときは、道路管理者、河川管理者、地元住民、学識経験者等の意見を十分聞くものとする。
- 4 高知県及び機構が保存方針の変更を行うときは、推進委員会の意見を聞くものとする。
- 5 委員会の設置は、推進委員会設置要綱に基づき別に定める。

附 則

- 1 保存方針は、平成10年7月16日から施行する。
- 2 保存方針の期限は、平成18年3月とする。

沈下橋保存方針イメージ図



※ 台帳（道路台帳、農道台帳、林道台帳）に記載されている沈下橋を保存方針の対象とする。



高知県環境共生課

〒780-8570 高知市丸ノ内1-7-52 TEL 088-821-4863 FAX 088-821-4530

四万十川総合保全機構

四万十市地球環境課

〒787-8501 四万十市中村大橋通4-10 TEL 0880-34-1170 FAX 0880-34-7466

四万十町環境課

〒786-8501 高岡郡四万十町茂串町3-2 TEL 0880-22-3135 FAX 0880-22-0361

中土佐町町民環境課

〒789-1301 高岡郡中土佐町久礼6602-2 TEL 0889-52-2213 FAX 0889-52-2531

津野町西庁産業建設課

〒785-0595 高岡郡津野町力石2870 TEL 0889-62-2314 FAX 0889-62-2384

梶原町環境推進課

〒785-0695 高岡郡梶原町梶原1444-1 TEL 0889-65-1251 FAX 0889-40-2010

財団法人 四万十川財団

〒786-0013 高岡郡四万十町琴平町474-1 TEL 0880-29-0200 FAX 0880-29-0201